

# 子どもたちの豊かな気づきや感じ方を育む生活科の支援

—複式低学年単元「おこめをたんけんしよう」の実践をもとにして—

吉 浦 公 子

## 1 研究課題

食生活が多様化している現在にあっても、米は私たちの生活において欠くことのできないものである。子どもたちは毎日、ご飯をはじめとする米を使った料理や、米を使ったさまざまな加工品と出会い、食べることの楽しさを味わっている。また、家庭生活のなかで、家族から米にまつわる話を聞いたり、家庭での調理の様子を見たり、地域の伝統的な米の料理に出会う機会もみられる。さらに、子どもたちの中には、米の輸入といった情報を聞いたり、植物としての米と出会う場合もある。

このように、米は、子どもたちにとって、食という楽しい体験につながる対象であるとともに、児童をとりまく社会・自然・自分と自分自身とのかかわりに気づき、深めていく一つの糸口になると考えられる。

そこで、子どもたちに身近な米に焦点を当て、米について「なぜだろう、調べてみたい。」「どうやるのかな、やってみたい。」という、一人一人の問題を見つけることを通して、活動や体験の中での「おもしろさ」を感じてほしいと願っている。また、自分なりの方法を考えて、自分の力で追究する活動を通して、米と自分とのかかわりに気づいたり、工夫してより豊かな生活を作っていく態度を育成したいと考えた。

本稿では、単元「おこめをたんけんしよう」を通して、「子どもの豊かな気づきや感じ方を育む生活科の支援」のあり方について考察していきたい。

## 2 単元の概要と研究の視点

### (1) 単元の概要

#### ① 学習のねらい

ア 毎日食べている米と自分との関わりに気付いたり、より楽しく豊かな生活にするために自分なりに工夫することができる。

イ 米について、自分なりのめあてを見つけたり、調べるための自分なりの方法を考えることができる。

ウ 米について、調べたり、実際に行ったことを自分なりの方法で表現することができる。

エ 自分の活動について、ふりかえったり、新しいめあてを見つけることができる。

#### ② 学習の展開

第一次 おこめたんけんの計画をたてる。……………2時間

第二次 おこめたんけんをする。……………2時間（+家庭で）

第三次 見つけたことをみんなに知らせる。……………3時間

第四次 次のおこめたんけんを考える。……………1時間（→家庭で）

#### ③ 本単元に関わる児童の実態（面接による聞き取り）

本実践は、複式学級低学年で実施した。学級の児童は、次のように構成されている。

第1学年児童10名（男子5名・女子5名）、第2学年児童10名（男子5名、女子5名）

本単元に関わる児童の実態（面接による聞き取り）は、次に示すとおりである。

本単元に関わる児童の実態（面接による聞き取り）  
 複式低学年 1年生（男子5名、女子5名）2年生（男子5名、女子5名）  
 実施日 1994. 9. 9（金）

1 ご飯は好きですか。（答えられる児童のみに「どうしてですか」）  
 大好き 9名  
 好き 11名  
 あまり好きではない 0名  
 嫌い 0名  
 理由  
 大好きと答えた児童の理由（重複回答あり）  
 おいしいから（4）、甘いから（1）、パンよりほかほかだから（1）  
 いろんなものに変身するから（1）、パンが嫌いだから（1）  
 分からないけど大好き（2）

2 1日のうち、いつご飯を食べますか。（朝と夕方のみ質問）  
 朝食：ほとんどご飯 9名  
 ご飯かパン 1名  
 パンのみ 8名  
 その他 シリアル（377k-11）1名、バナナ（食べない）1名  
 夕食：ほとんどご飯 20名 ご飯以外 0名

3 ご飯で好きなメニューは何ですか。（1～2点あげるように指示）  
 お茶漬け（5）、カレーライス（4）、すし（4）、カツ丼（3） おにぎり（3）  
 親子丼（2）、チャーハン（2）、日の丸弁当（1）、おかゆ（1）、  
 ご飯をおかずにご飯を食べる（1）、  
 \* たまごかけご飯は好きだけど食べさせてもらえない（1）  
 （377k-#を家族が気にしているから）

4 ご飯は、家でどうやって作るか知っていますか。  
 お米を電気釜で炊く 20名 知らない 0名

5 家でご飯を作ったり、作るのを見たりしたことがありますか。  
 一人で炊くことができる  
 5名（2年女子4名、1年男子1名）  
 家の人といっしょに炊いたことがある  
 7名（2年男子2名、2年女子1名、1年男子2名、1年女子2名）  
 そばで見たことがある  
 3名（1年男子1名、1年女子2名）  
 見たことがない  
 5名（2年男子3名、1年男子1名、1年女子1名）

1994. 9. 9（金）実施

児童番号	ご飯が好きか (理由)	一日の主食は何か		ご飯を炊いた ことがあるか	抽出児 (3名)
	◎大好き ○すき △ ×きらい	朝	夕	△一人で可能 ○誰かと一緒 △見ただけ ×見たこと無	
1年生 (男子)					
①	○	ハッ	ご飯	○母と一緒に	
②	◎変身する	ご飯	ご飯	◎一人で可能	
③	○	ハッ	ご飯	△母と一緒に	
④	◎わからない	ご飯	ご飯	△見ただけ	
⑤	○	ハッ	ご飯	×見たこと無	○
(女子)					
⑥	○	ご飯	ご飯	△見ただけ	
⑦	◎わからない	ハッ	ご飯	○母と一緒に	
⑧	◎おいしい	ハッ	ご飯	△見ただけ	
⑨	◎甘い	ご飯	ご飯	○母と一緒に	
⑩	○	シリアル	ご飯	×見たこと無	○
2年生 (男子)					
⑪	◎ほかほか	ハッ	ご飯	×見たこと無	
⑫	◎おいしい	ご飯	ご飯	×見たこと無	
⑬	○	ハッ	ご飯	○母と一緒に	
⑭	◎おいしい	ご飯	ご飯	○母と一緒に	
⑮	◎おいしい	ご飯	ご飯	×見たこと無	○
(女子)					
⑯	○	ご飯	ご飯	○母と一緒に	
⑰	○	ご飯	ご飯	◎一人で可能	
⑱	○	ハッ	ご飯	◎一人で可能	
⑲	○	ハッ	ご飯	◎一人で可能	
⑳	○	ご飯	ご飯	◎一人で可能	

なお、「米」にかかわって本学級の保護者に対してアンケート調査を実施した。次は、その結果の主なものである。

「米」にかかわる各家庭の実態（アンケートによる調査）

複式低学年 保護者20名 実施日 1994. 9. 7（水）実施

1 家庭では、どのような「米を使ったもの」をよく食べますか。

どのようなものを、自宅で手作りしていますか。

\* 数字はよく食べる（時々も含む）ものとして挙げた保護者の数、重複回答あり

( ) 内の数字は、家庭で手作りしているもの

- ①餅 18 (4) ②さくらもち 17 (5) ③かしわもち 15 (5) ④赤飯 10 (9)  
 ⑤おかき・あられ 10 (1) ⑥せんべい 10 (0) ⑦米味噌 10 (1) ⑧団子 7 (6)  
 ⑨おはぎ 6 (4) ⑩甘酒 4 (3)

2 外国の米料理について、どのようなものを家庭で作っていますか。

チャーハン (7)、ドリア・ライスグラタン (5)、パエリア (3)、ライスプディング (1)  
 中華ちまき (1)

3 子どもに伝えたいと考えている家庭の味（米にかかわって）は何ですか。

- ・おはぎ (3) 寿司 (3) 炊き込みご飯 (1) かしわもち (1) 月見団子 (1)
- ・日常の白飯以外はほとんどやったことがない。これから作ってみたい。(6)

4 子どもに話したい保護者の「米や米料理」の思い出（一部抜粋）

- ・おもちを砕いて雛あられを作ってもらった。・おばあさんのおはぎについて
- ・小さい頃、米やご飯を粗末にして叱られたこと・小さい頃、お月見に団子汁を食べたこと

(2) 研究の視点

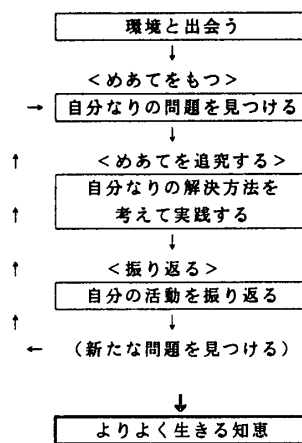
① 豊かな気づきや感じ方を育む生活科の学習ステップ

昨年度より「子どもの豊かな気づきや感じ方を育む生活科の支援」を重点課題として、次頁に示すステップを構想し、実践研究してきた。第2年次の本年度は、「自分なりの問題を見つける」段階、→「自分なりの解決方法を考えて実践する」段階に焦点を当てることにした。

このステップは、完結することなく、活動の中で新たな問題（新たなめあて）へと続くものであると考えている。そのためには、めあてを追究するために自分なりに調べたこと・やってみたことを友だちに表現したり、友だちの表現を受けとめる場を大切にしていきたい。この中で、子どもたちの「豊かな気づきや感じ方」はさらに育まれていくと考えている。

ここでは、次のような授業仮説を設定し、実践した。

### 授業仮説



自分なりの方法で調べたり、やってみたことを友達に伝えたり、友達の表現を受けとめたりすることができるならば、新たな問題を見つけたり、自分なりの方法を考えて活動する楽しさを味わうであろう。

### ② 豊かな気づきや感じ方を育む生活科の支援

豊かな気づきや感じ方を育む教師の支援において、基本となるものは、＜自分で気づき、判断し、実践する活動の重視＞であると考えている。学習のステップの中で「自分なりの問題を見つける」（めあてをもつ）段階の支援としては、一人一人の子どもの思いや願いをとらえて、問題の見つけ方、発見の仕方にかかわる助言をすることを大切にしていく。また、「自分なりの解決方法を考えて実践する」（めあてを追究する）段階では、一人一人の活動を共感的に理解し、助長していくことを重視し、子どもの思いや願いが生きる弾力的な学習展開等を考えていく。また、支援にあたっては、一人一人の児童の活動を見守りながらその方法や時期をとらえていくようにする。

以上の研究の視点ふまえて、単元「おこめたんけんをしよう」を実施した。

## 3 単元「おこめたんけんをしよう」における学習の実際

### (1) 本時の意図

本時（第三次 第2時）は、米について、児童一人一人の「なぜだろう」「どうやるのだろう」という問いから生まれためあてについて、自分なりの方法で調べたり、やってみたことを友だちに伝える活動である。発表に対して、友だちが驚いたり、興味をもったことを通して、毎日食べている米について、問題を見つけ、調べることでできた自分に気付かせようとした。また、友だちの発表を実感として受けとめることにより、新たな見方・感じ方を体験し、つぎの問題を見つけたり、自分なりの方法を考えて活動する楽しさを味わわせたいと考えた。

### (2) 本時のねらいと評価の観点

#### ① 本時のねらい

米について、調べたりしたことを、自分なりの方法で表現したり、友だちの表現を楽しく受けとめることができる。

#### ② 評価の観点

関心・意欲・態度	自分が活動したことを友だちに、どのような態度で伝えようとしているか。 友だちの表現に対して、どのような関心をもっているか。
思考・表現	活動したことをどのような方法で表現しようとしているか。
環境や自分への気付き	米と自分との関わりについて、どのような気付きをしているか。


(3) 学習の流れ

学 習 活 動	支 援 活 動	
	みとりの視点	具体的な支援の方法
1 おこめについて、たんけんしたことをみんなに知らせる準備をする。 ・発表につかうもの (本時の活動)	○自分が表現を行うために、どのような準備をしようとしているか。	1 自分の伝えたいことが、友だちにより分かってもらえるように、発表の準備の時間をとる。会場の準備は、子どもたちが行うが、その際、一人一人の表現が生きる場となるように支援する
2 おこめについて、しらべたことや、やってみたことを発表する。 ・しらべてみたこと ・やってみたこと 聞いた・見た 食べた・触った 作った・試した ・思ったこと ・考えたこと	○これまでの活動をどのように表現しようとしているか。  ○友だちの活動や表現について、どのような関心をもったか。	2 教師は、児童と同じ位置で一緒に表現を受けとめ、驚いたり、質問したりしながら、児童のよさが出るようにする。 友だちの探検の方法（食べる・嗅ぐ・触れるなど）で、可能なものは全員で行えるようにし、多様な感じ方（味・香り・手触り）を実感としてとらえることができるようにする。
3 友だちの表現を見たり、聴いたりして思ったことを話し合う。	○友だちや自分の活動や表現について、どのようなふりかえりをしているか。	3 本時の活動をふりかえる場を設定することにより、友だちや自分のよさや気づきから、新たなめあてへとつなぐ
(次時への発展)		
4 次にやってみたいこと、もっと調べたいことをみつける	○次の活動に対して、どのような意欲や関心をもち始めたか。	4 まだつづけてやりたいこと、新しく調べたり、やってみたいことを問いかけることにより、活動の発展を図る。

(4) 主な学習活動と支援活動

次に示すのは、上記の学習の流れの中の〔2〕（おこめについて、しらべたことや、やってみたことを発表する。）の活動と抽出児の反応である。

児童①～⑤（1年生男子）、⑥～⑩（1年生女子）、⑪～⑮（2年生男子）、⑯～⑳（2年生女子）

児童のめあて（発表児童） ・児童の表現活動	抽 出 児 の 反 応		
	児童⑮（2年男）	児童⑤（1年男）	児童⑩（1年女）
ア) お米にはどんな名前があるか（児⑬） ・紙に書いて発表する。	「知ってる。」		真剣に聞く
イ) お米はどうやったらごはんになるのか (児④⑨) ・自分が炊飯器で炊いたご飯を見せながら発表する。		「食べたい。」	「わぁ。」

・ みんなに試食してもらおう。



「いいにおい」

「たべたい。」

にこっと嬉しそ  
うな表情

「(ほくの) ご飯  
がありません。」  
配られると、箸  
を使わず手で食  
べる

「おいしい。」

ウ) 三角おむすびを作ってみたい

(児①⑤)

・ ラップを使っておむすび作りを実  
演する。



一生懸命に聞  
く。

質問「ぺっちゃん  
こにするのは  
どのくらいです  
か。」

発表者；

「①君のお母さ  
んから教えても  
らいました。」

「塩のいる人は  
今の内にふりま  
す」

「わかりません。」

「ああ、たべたい」  
体を乗り出し  
て、見る。

エ) 大好きな6年生のお兄ちゃんの顔  
をおにぎりで作る (児⑥)

・ 自分で作ったおにぎりを見せる。

拍手をする

拍手をする

「にてる、すごい」  
周りの同意を求  
める

オ) 焼きおにぎりはどうやって作るのか。  
(児⑦)

・ 紙でフライパンやおにぎりの模型  
を作り、身体表現する。

拍手をする

初めて拍手をす  
る

「フライパンが  
すごい。」

「水づけなんか、  
一番まずそう。」

質問があるのか  
挙手をする。当  
ててもらえない。

カ) 一番おいしいお茶づけを探す

(児③⑩)

・ 5種類のお茶漬けの絵を見せてク  
イズ形式にする。

クイズに対し、  
つぶやきながら  
挙手

「さけ茶づけが  
一番おいしと思  
うんだけどね  
え。」

「うめぼし茶づ  
けほく嫌い。」

発表者；  
「いやだあ」の  
後、児③と打ち  
合わせが終わる。

「一番おいしいの  
は？」「一番まず  
いのは？」

キ) 外国の人はご飯を食べるのか

(児⑪⑫)

・ 外国の人や外国へ行った人からの  
聞き取り調査の結果を紙に書いて説  
明する。

一生懸命に聞  
く。

黙って見てい  
る。

真剣に見ている  
発表後も文字を読  
むことに熱中し、  
拍手をしない。

ク) 米のものは何か


(児⑬)

・ 農家の人の仕事の様子の写真や稲  
の実物を見せて説明する。

一生懸命に見  
る。

椅子から乗り出

稲に興味を示し

	<p>児童⑧の父親が 実演している写 真をじっと見つ める。 「すごい。」</p>	<p>して見る。  稲を手にとっ て、米を出して 見る。</p>	<p>てよく見ている。</p>
<p>ケ) お米屋さんパンを食べるかパン 屋さんはご飯を食べるか。(児⑭⑮) それぞれの店の人からの聞き取り 調査の結果を紙に書いて説明する。</p>	<p>発表社； 「お米やさんも パンを食べるそ うです。」 店で売っていた 米入りのパンを 示す(写真右)</p>	<p>静かに見る。</p>	<p>お米の入ったパン をじっと見ている</p>
<p>コ) おだんごは本当にお米からできる のか (児⑧) ・ だんごの粉(米の頃)と前日母親 と一緒に作った学級人数分のみたら し団子を示し説明する サ) お米でできているおかしはあるか (児⑯⑰⑱⑳) ・ 店で売っていた数種類の米菓と、 その他見つけた米酢・米味噌・餅・ 米ぬか石けん等の実物を提示する。</p>	<p>きちんと座って 聞く。 人数分あると分 かると、盛んに 拍手する。 みんなの後ろの 方から見る。</p>	<p>顔を上げ、嬉し そうにだんごを 見る。  ときどき見る。</p>	<p>「なにだんごな の」 「食べていいの」 大きな拍手をす る  他の友だちの間 から、ときどき のぞいて見る。</p>

上記の活動における教師の支援としては主に次の点を中心とした。

○ 一人一人のめあてとその表現が生きる場の設定(発表順, 発表場所)

調べたり、やってみたことが、より豊かに表現でき、その表現を十分受けとめることができるように、発表場所は限定せず、一人一人の児童と話し合いながら決定した。

次に示すのは、発表場所の例である。

上記の表現キ) 教卓の位置で黒板を利用して、書いたものを提示する。

表現ク) 教室の後方の広いスペースを活用して、小さな写真や稲がよく見えるようにする。

表現サ) 畳の上で(教室には四畳半の畳コーナーが常設)座卓を活用してみんなが手に取れるようにする。

また、実態調査の結果、米に関してこれまでの経験においてかなり違いがあること、1・2年生の複式学級であることから、どの児童にとっても、理解しやすいように発表順を意図的に決定した。

児童に身近な内容から、少しずつ発展していくように、今回は次の順序にした。

① 日常生活により近いご飯に関するもの(アイウエオカ)

- ② 米そのものにかかわる内容（キクケ）
- ③ 米を加工したものなどの内容（サシ）
- 児童一人一人の調査活動や思いが生きる表現方法の支援
  - ・ 前時までの一人一人の表現の工夫に対する助言
  - ・ 本時の活動について、「よさ」を他の児童に気づかせる言葉かけ

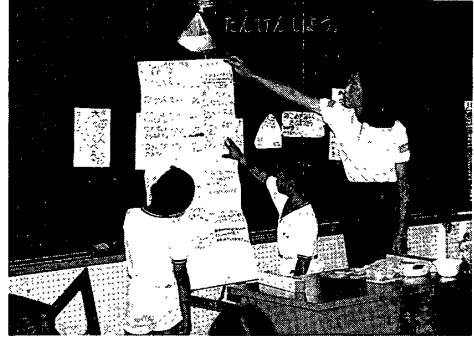
上記の活動 キ)「外国の人はご飯を食べるのか」の場合は、次のような言葉かけをおこなった。

児⑪： ホンジュラスでは、パエリアというごはんのりょうりを食べるそうです。

スペインの人と同じ食べ方をしているのがわかりました。

児⑫： アメリカでは、ごはんの上にさとう・生クリーム・バターなどをまぜて、おかしのようにして食べるそうです。

カナダでは、ごはんの上にシチューみたいなのをかけて食べるそうです。



T： たくさん調べましたね。どうやって調べたのか、みんなに話してください。

児⑪： いろいろな国の人が最初は見つからなかったんだけど、他の人に相談したら、外国に住んだことがある人とか、旅行に行ったことのある人に聞いたらと教えてくれたので、たくさん調べることができました。

児⑫： ぼくのおとうさんはテレビで見たことを教えてくださいました。

○ 次への活動のきっかけとなる場づくり

ここでは、本校の近くに住んでおられる「おはぎづくりの名人のTさん」に来ていただいて、本時の学習後、子どもたちと保護者一緒におはぎづくりを体験する場（第3時）を設定した。

#### 4 考察

本実践を授業仮説に照らして考察する。

「自分なりの方法で調べたり、やってみたことを友だちに伝えたり、友だちの表現を受けとめたりすることができる」についての児童の活動と反応は次のように考えられる。

調べ方や発表の仕方については、前述の表現ア～サまでの活動が示すように、どの児童も自分に最もふさわしいと考えた場所で、自分なりの工夫ができた。また、友だちの表現に対しては、3名の抽出児の反応から、特に次に示す場で強く受けとめることができたと思われる。

イ) お米はどうやったらご飯になるか \_\_\_\_\_ 自分たちでできそう、やってみたい、食べてみたい  
ウ) 三角おむすびを作ってみたい \_\_\_\_\_ ということいが生まれた。

ク) 米のもととは何か \_\_\_\_\_ 稲穂の実物や発表者のおとうさんが、コンパインに乗って実演してくれている写真など、提示された資料が子どもの気持ちを高めた。

コ) おだんごは本当にお米から \_\_\_\_\_ 一人に一本ずつあり、食べてみたいという強い思  
できるのか 生まれた。

なお、サ)の「お米でできているおかしはあるか」については、食べることのできるものがたくさん提示されていたが、米の形をとどめていない加工品であったことから、「米」「ごはん」としての驚きや感動といった反応はあまり見られなかった。

「新たな問題を見つけたり、自分なりの方法を考えて、活動する楽しさを味わうであろう」について授業後の抽出時の新たな問題及び活動の様子から見ていく。

